聖書
使徒の働き１６章１１～１５節

16:11 私たちはトロアスから船出して、サモトラケに直航し、翌日ネアポリスに着いた。
16:12 そこからピリピに行った。この町はマケドニアのこの地方の主要な町で、植民都市であった。私たちはこの町に数日滞在した。
16:13 そして安息日に、私たちは町の門の外に出て、祈り場があると思われた川岸に行き、そこに腰を下ろして、集まって来た女たちに話をした。

16:14 リディアという名の女の人が聞いていた。ティアティラ市の紫布の商人で、神を敬う人であった。主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに心を留めるようにされた。
16:15 そして、彼女とその家族の者たちがバプテスマを受けたとき、彼女は「私が主を信じる者だとお思いでしたら、私の家に来てお泊まりください」と懇願し、無理やり私たちにそうさせた。

説教
「我らの主、イエス・キリスト。」

使徒信条からの5回目の説教です。
皆様と一緒に今日も使徒信条を告白しましょう。

使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生れ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府（よみ）にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。

かしこより来たりて生ける者と死にたる者とを
審きたまわん。
我は聖霊を信ず。
聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体（からだ）のよみがえり、永遠（とこしえ）の生命（いのち）を信ず。
アーメン

使徒信条は三つの部分からなっています
①父なる神様についての告白、
②イエスキリストについての告白、
③聖霊についての告白、
三位一体の神様を信じています、と言う告白です。
前回から②のイエスキリストについての信仰告白に入りました。

前回は独り子なる神を信ずと言うテーマで学びました。
イエス様は神の独り子、ニケヤ信条では
御父より生まれ、光りよりの光り、
真の神よりの真の神、造られずして生まれ、御父と
同質にして万物は主によって造られたり
とイエスキリストは真の神と告白しています。
人となってくださったイエスキリストを通してのみ
神を知ることが出来ます。

今日のところ、
「我らの主、イエス・キリストを信ず」を分解しつつ学んで行きましょう。
まず、イエス・キリスト
イエスが名、キリストが姓ではありません。
イエスが名前、キリストはメシヤ、
イエス・キリストと告白することは
イエスはメシヤ、私の救い主ですと告白することです。

イエスは名前、その時代にもイエスという方が多くおられ、区別するために
ナザレのイエスと呼ばれていました。
マリヤより生まれ、大工の子としてヨセフマリヤの家庭に育ったイエス。この方こそメシヤ、キリストと告白しています。
イエスはギリシャ語、ヘブル語ではヨシュア。
神は勝利という意味の名前です。

キリストについて考えましょう。
キリストはギリシャ語、ヘブル語ではメシヤ。
キリストとは油注がれた者。
日本で油というと食用油か工業用油できれいな
イメージはありません。
聖書に出る油は香油、ナルド、ヘンナ樹、オリーブ、バラなどの香水、香りが良く、皮膚にも優しく、消毒、癒しの力があり、純度の良いものはアルコールのように燃えるものもあります。
このような香りの良い油は聖霊を差しています。

聖書の世界では職務に就くとき、油を注いで、任職の儀式をします。
預言者、祭司、王に任職する時、聖霊が注がれて満たされることを願って油が注がれます。
イエス様は油注がれたキリスト、メシヤです。
イエス様を信じることは
イエス様は最高の預言者、永遠の大祭司、我らの王です、と告白することであります。

イエス様は人となってくださった神様で完全な預言者です。預言とは神様のことばを預かって語る人のことです。
イエス様はその教えと御わざで父なる神様を現してくださいました。イエス様のことばは真理です。心を満たし、希望を与える愛のことばです。
イエス様を救い主と告白することは、イエス様のおことばを信じ、導かれ、ことばによって強められ確信に満ちて生きることであります。

イエス様は永遠の大祭司です。
祭司はいけにえの小羊を献げます。
イエス様は永遠の大祭司として、身代わりの完全な小羊になって死んでくださって私たちの罪を贖ってくださり、同時に大祭司として御自身を献げてくださいました。そして復活して父なる神の右の座について私たちの信仰がなくならないために絶えず永遠の大祭司として祈っていてくださいます。

第三はイエス様は王様であられます。
ダビデやソロモン、王に就任する時、神に立てられ、神の力によって治め、神に謙遜に従うように、聖霊の助けによって治められる様に油を注がれました。
イエス様は完全な王様であります。
イエスキリストと告白する時は、イエス様は私の人生の完全な王様であります、と信じている事であります。

何があっても完全な王イエス様は守って養ってくださる。経済も、健康も、人間関係も、守り導いてくださると確信して揺るがないで歩むことが
イエスをキリストと信じることであります。
又、この最高の王に王のしもべとして仕え、献身して、王の支配、主の御心が地上でなされる様に、王に忠実に従い主の栄光の人生を送ることが主を王と信じること、イエス様をキリストと信じることであります。

我らの主、イエスキリストを信ず。
このイエスキリストを私たちの主と信じ告白します。
イエスキリストは私たちの主。
主とは何かについて考えましょう。

旧約聖書のヘブル語では日本語で主と訳されている二つのことばがあります。
新改訳聖書では主と太い文字で書かれています。
これはヤハヴェという天地を造られた神様の固有名詞であります。ここからエホバということばも出て来ています。
ヤハヴェという神様の名前の意味は
「ある」と言う意味。出エジプト3章１４節
わたしはあると言う者である、と神様は自己紹介しておられます。

主を現すもう一つのことばはアドナイと言うヘブル語です。
これは一般的な主人を現す用語です。
ヘブル人たちはヤハヴェという神様のお名前を使うことに恐れ多く感じて、ヤハヴェのところもアドナイと読み替えていました。

使徒信条ではイエス様を我らの主と呼んでいます。
イエス様は人となられた神様、ヤハヴェ、であると告白しています。モーセは燃えても消えない柴の中にヤハヴェなる神様の臨在を覚えて恐ろしくなり、履き物を脱ぎなさいと言われました。イザヤもヤハヴェなる神の栄光を見た時、わたしは滅びると叫びました。
イエス様はこの大いなる神が人となって地に来てくださったメシヤであられます。
この主に、こころからお仕えして生きたいと願います。

この主イエスキリストを告白する時、
いままで我はと単数で告白していましたが、
イエスキリストを我らの主と複数で告白しています。
イエス様は私の主であり、我らの主であられます。

ペテロは「あなたは生ける神の子、キリストです」と信仰の告白をした時、イエス様は
わたしはこの岩、イエスを主と告白する信仰の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません、と言われました。
イエスを主と告白する者はキリスト者、キリストに属する者と呼ばれて行きました。キリスト者は神の家族、キリストによって召された共同体、イエス様は私の神、又私たちの神であられます。

最初に朗読した使徒１６章１１～１５節、
パウロ、シラス、テモテ、新しく加わったルカの４人が
海峡を渡ってピリピの町で伝道をしました。
祈り場があると思われた川岸に行くと女性たちが集
まってパウロが伝道するとルデアさんがイエス様を信
じました。

16:15 そして、彼女とその家族の者たちがバプテスマを受けたとき、彼女は「私が主を信じる者だとお思いでしたら、私の家に来てお泊まりください」と懇願し、無理やり私たちにそうさせた。

ルデアは主イエス様を信じました。ルデアはテアテラ出身の紫布の商人、神を敬う人、

出身は異邦人、でも聖書の神を信じて、さらにパウロの宣教でイエス様を信じ弟子となり、神の家族にいれられました。

私の家にお泊まりください。無理矢理そうさせたと書かれています。ルデアは女性。パウロ、シラス、テモテ、ルカは男性。
パウロ、シラスはユダヤ人、テモテは父は異邦人、母はユダヤ人、ルカは異邦人、
私たちは主イエス様を信じ神の家族、共同体とされました。
ルデアは私の家を拠点として伝道してください、家の教会として用いて下さいと懇願してパウロはそのようにしました。

ルデアに取ってイエス様を主と信じることは
神の家族に加えられること、伝道の旅をしているパウロたち、はるかアンテオケから何百キロも旅をしているこの伝道チームをもてなして、家を拠点として伝道の助けをすることが使命と考えました。

このピリピの町で占いの霊に憑かれた女が霊から解放されて救われました。
暴動が起こり投獄されましたがパウロシラスは獄中で賛美と祈りをしていると、地震が起こり、扉が開き、手かせ足かせが外れ、自殺をしようとしていた看守に「主イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家族も救われます」と言って看守の家族が救われ、バプテスマを受け、パウロシラスを家に招いてムチで打たれた傷の介抱をしました。

パウロ・シラス・テモテ・ルカの伝道チームはピリピを離れました。しかしピリピの教会は
ルデア、占いの霊から解放された奴隷の女性、救われた看守の家族たちが、イエス様を主と信じ、
みことばを聞き、祈り、イエス様は王であると告白して
苦難があっても王なるイエス様に祈っていました。

ピリピ４章４節
「いつも主にあって喜びなさい。
もう一度言います。喜びなさい。」
イエス様はキリスト、王なるお方、すべての支配者、
いつも私たちの信仰がなくならないように祈っていて
くださる大祭司なるイエス様を信じ
いつも主にあってよろこんだ信仰生活を送っていまし
た。

主にあって、喜びの日々を送りましょう。